

2026年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	総合演習Ⅱ「市場と企業行動」		
担当教員名(五十音順)	橋本 悟、青山 直人		
ディプロマ・ポリシー(DP)との関係			
	DP1	DP2	DP3
	○	○	
科 目 の テ ー マ	<p>本総合演習Ⅱは前半を橋本、後半を青山の二名で担当する。</p> <p>(前半のテーマ) 事例を用いて、市場構造や企業行動を定量的に分析することをテーマとする。市場データや企業データを使ってさまざまな定量分析を行い、現実の市場分析をするための実践的な研究能力を養う。</p> <p>(後半のテーマ) 市場の失敗と企業行動を理論的に分析することをテーマとする。現実社会において、企業行動が原因で市場が失敗しているケースを理論的に検討する。</p>		
科 目 内 容 ・ 方 法 等	<p>(前半の内容・方法) 第1ステップとして、市場で活動する企業の行動を産業組織論の視点から分析する。具体的には、産業組織論の内容を現実の企業の行動と照らし合わせ、理論を現実にもどのように適用できるかを考える。第2ステップとして、市場データや企業データを用いて、市場や企業を定量的に分析する。市場の需要曲線や企業の費用曲線などを具体的に推定して、市場構造や企業の戦略について理解を深める。</p> <p>(後半の内容・方法) 理論上、市場経済は効率的な資源配分を実現できる機能をもつと考えられている。しかし現実には、不完全競争や外部性等の要因により市場の失敗が存在する。本演習では、まず、不完全競争市場と外部性の基礎理論を取り上げ、市場と企業行動を分析するためのシンプルな経済モデルの構築方法を学ぶ。そのうえで、分析対象とする経済現象に特有の要因を抽出する。その要因を経済モデルに組み込む方法を学ぶ。</p>		
到達目標：			
(前半)			
<ul style="list-style-type: none"> 産業組織論を現実の企業行動等に当てはめて分析する。 簡単な市場需要曲線や企業の費用曲線などを推定することができる 			
(後半)			
<ul style="list-style-type: none"> 不完全競争市場と外部性を想定したシンプルな経済モデルを構築できる 分析対象とする経済現象に特有な要因を抽出することができる 抽出した要因をもちいて、経済現象を分析するためのシンプルな経済モデルを構築できる 			

評価方法及び評価基準：

前半（橋本の担当箇所）50点、後半（青山の担当箇所）50点とし、100点満点で評価する。

（前半）授業への参加度、報告、ディスカッションなどを考慮して総合的に評価する。

（後半）精読、報告、討論への取り組み状況を総合して、50点満点で点数化する。詳細については、授業内で伝える予定である。

評価基準を次に示す。

80点以上 A 評価

70～79点 B 評価

60～69点 C 評価

60点未満 F 評価

授業の方法：

（前半）基本的には報告・ディスカッションを中心に行う。学生の報告・分析が中心になると思われる。

（後半）書籍や学術論文の精読、報告、討論により行う。